

平成29年度 学校評価アンケートの分析と具体的な方策

1 改善された点

1 「よくあてはまる」、2 「ややあてはまる」の合計評価が85%以上の高評価を得た項目が36項目中33項目あり、昨年に比べて8項目増加している。特に、大項目「教育方針」「家庭との連携」「教職員」「授業」の全てで85%の高評価をいただいた。これは、昨年に引き続いて部懇談、個別の保護者懇談、授業参観、学級通信等、様々な機会です丁寧な対応と説明をしていただいた成果と考えられる。

項目番号11：進路に関する情報提供については昨年度に比べ**21%**の著しい上昇がみられた。保護者のニーズに合った内容の情報提供がされたためであると考えられる。

その他にも以下の項目が昨年度比10%以上上昇した。

項目番号 7：教育方針や「個別の指導計画」等の保護者への説明 **12%増**

項目番号 9：児童生徒の様子や保護者との意思疎通 **12%増**

項目番号14：学校の雰囲気がよく教職員が協力し合っている **12%増**

項目番号18：専門的知識が豊かで教師の資質を身に付けている **10%増**

項目番号20：児童生徒の病気や障がいの理解 **11%増**

中でも、項目番号14は、1 「よくあてはまる」、2 「ややあてはまる」の合計が**100%**という結果となった。上記の項目はいずれも大項目「家庭との連携」「教職員」の中の項目であり、日々の研修と保護者への丁寧な対応の成果であると考えられる。

2 分析と対策

項目27の「進路指導で他の機関と細かく連携をとっている」という項目については、昨年に比べて5%ダウンとなっている。この項目の部別の回答を見ると、5 「わからない」と回答した保護者が小学部は35.3%、中学部は35.7%、高等部は18.8%となっており、小・中学部と高等部では大きな差がみられた。これは、小・中学部の保護者には、職場体験・就業体験・施設体験などが具体的なイメージとしてとらえられていないためと思われる。しかし、早期から進路に関して関心をもつていただくことは大切であり、今後キャリア通信「架け橋」などで、職場体験・就業体験・施設体験等の具体的なねらいや内容、生徒の体験談等を発信し、小・中学部の保護者にも関心をもつていただくことが大切である。

項目28の「緊急時の対応について備えている」は、分からないが12%である。年間を通して「命を守る訓練」を実施しているが、保護者に対する情報発信の場が現在のところ少ない。今年度もPTA総会後に、本校の防災対策について説明をさせていただいたが、参加者が少なかった。保護者に安心していただくためには、情報発信の方法と機会を考慮する必要がある。

項目31の「ホームページによる教育活動の理解啓発について」は本年度新しく設けた項目である。5 「わからない」が16%とやや多い。自宅でのインターネット環境が整っていない、インターネット閲覧の経験がないなどの要因も考えられる。機会あるごとにホームページのリニューアルについては校長から保護者へ発信してもらっているが、各担任においても是非保護者への発信をお願いしたい。また、スマホ用ホームページ作成の可否についても検討していきたい。

大項目の中で唯一5%の上昇がみられなかったのが「授業」の項目である。すでに90%の高い評価を得ているが、この項目は学校教育の生命線でもある。今後も児童生徒の的確な実態把握を基に、授業研究、教材研究をさらに深めていく必要がある。